

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 157号

## 日本の復興とアシュラム

日本イエス・キリスト教団 牧師 小島 十二



「弟子たちがイエスに問うて言った。「主よ。国を復興なさるのは、この時なのですか。」彼らに言われた。「…ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなた方は力を受けて…わたしの証人となる。」使徒行伝 1章6から8節

日本は、前大戦を、天皇崇拜の「神国日本」の聖戦思想精神で戦いましたが、敗れ、国家は滅びました。戦後、日本復興のために、歴史の審判主・天地の創造主は、神のしもべ伝道者スタンレー宣教師を遣わされました。スタンレー師は何度も来日し、福音を宣べ伝え、傷つき倒れた人心に、いやしと和解と希望の力であるキリストを証し、アシュラムを全国各地に紹介されました。アシュラムとは、インド社会の退修会ともいう集まりのことで、「仕事から離れて」の語源からと聞く。

アシュラムは、仏教座禅と似た要素をもつが、決定的特徴は、聖書が語り示す真理「キリストは何時までも変わることはない」今、生ける救い主キリストに、出会い、おことばに静聴し、自己をゆだね、キリストに似る者と変えられる。そして、神の新創造のみわざである「神の国」の喜びにあずかる時です。キリストのうちにある無尽蔵の富を証しする聖霊充滿生活の交わりです。またアシュラムは、教会の聖霊による一致と信頼の徳を建てるよう導かれるのです。(ガラテヤ5章13-26節)

同時に「罪と死の法則から、生命の法則」に(ロマ8章)生かされる、毎日、生けるキリスト、聖霊とその実の愛に導かれる信心の道です。(ヨハネ福音16章、エペソ5章13-21節)そして真理の自由と勇気に押し出され、神の国・キリストの謙虚な証人が生まれるアシュラムです。(ロマ14章17節、使徒1章6-8節、マタイ5章13-16節、コロサイ1章27)、アシュラムでは「イエスは主である」「イエスは、実に蘇られた」と挨拶します。今日のクリスチャンは生けるキリストの証人です。

日本の救霊、真の復興は聖霊の導きにあります。

「わたしはキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きるのではなく、キリストがわたしの内に生きておられるのです。いま私が、この世で生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味です」(ガラテヤ 人への手紙2章・新改訳聖書)

「なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫まっているからである。わたしたちは、こう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者もはや自分のためではなく、自分のために死んでよみがえった方のために、生きるためである。…だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った。見よ、すべてが新しくなったのである。しかし、これらのことは神から出ている。神はキリストによって、私たちをご自分に和解させ、かつ和解の務めをわたしたちに授けてくださった。」(第2コリント人への手紙5章・口語訳聖書)

(日本アシュラム連盟 関西支部長・芦屋川教会牧師)

# 指 針

## 『イエスは主である』

### I コリント12の3

東京新生教会牧師

横山 義孝



#### A アシラムのねらい。

クリスチャンアシラムは祈りの運動ですが、そのねらいとするところは、自己の魂を主イエスに信仰によって明渡すことによって聖霊の充滿を頂くことにあります。Eスタンレージョーンズの「アシラムとは何か」という小冊子の冒頭に次の様な解説があります。「使徒行伝に記された交わり(コイノニア)を教会に取戻したいとの願いから、今日まで多くのグループ活動が起った。このコイノニアは聖霊の降臨によって生まれた。これは階級、人種、年齢、性別など全ての垣を越えて緊密に編まれた交わり、即ち霊交です。このコイノニアが魂であって、そこから体なる教会が成長する。」と。一人一人が聖霊に満たされて聖霊の賜物を頂き、積極的な伝道と共に愛・

喜び・平和・寛容・親切・善良・誠実・勇和・自製の恵みを頂いて、主の臨在の豊かな教会になる。ここにアシラムのねらいがあります。

#### B アシラムの信仰の強調点

I コリント12章3節には「聖霊によらなければだれも『イエスは主である』とは云えないのです」とあります。このイエスは主である、との信仰に徹する生活を祈り求めるのが、アシラムの信仰の強調点です。コロサイの信徒への手紙1章14節以下には「天にあるものも、地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も支配も権威も万物は御子において造られたからです。…すべてのものは御子によって支えられています。また御子はその体である教会の頭です」とあります。ですから、イエスキリストはご復活によって神の御子であることが証しされた、万有の主たるお方です。私たちの魂の主はイエス、家庭・夫婦の主はイエス、我々の国家社会にとつても本質的にイエスキリストこそが主たるお方、世界と宇宙の主もイエスです。この信仰が、地上の凡ての人に確立したら、そこには間違いなく永遠の神の国は到来するのです。この信仰に立つて、まず私自身の信仰と生活の凡てに「イエスは主である」と告白するのがクリスチャンアシラムの信仰と祈りの目

標なのです。この告白が魂の深みから真実に神様のみ前に献げられるのは、聖霊の助けなしには不可能です。

#### C 主イエスへの明渡しこそ信仰の原点

##### (1) 魂の二ードを明渡す。

聖霊の充滿を頂くためにはまず、悔改めと渴望をもつて、魂の深みにある自分にとつての霊的必要性を明け渡すことからすべてが始まります。アシラムのプログラムでは「開心の時」がその信仰を分ち合う時です。コップに清い水を満たしたいなら、まずコップの中の濁った汚れた水は全部捨てなければなりません。「自分の罪を公に言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、不義から清めてくださいます」(Iヨハネ1の9)とある悔改めの実践が、魂のコップの清めにあたります。

##### (2) 服従と謙遜の歩み

清められた心は、神さまの聖なる御旨を鮮明に映し出し喜びに満たされます。大切なことはその神のみ旨に直ちに聴き従うことです。「聞き従つて、魂に命を得よ」(イザヤ55の2)とあります。主のみ旨に従う道は、愛と喜びと平和です(ガラテヤ5の22)。この恵みに感謝し喜ぶ生活は、何ものにも変えがたい恵みに溢れた生活です。しかし、これを継続させるには、神のみ前の謙虚な祈りの生活が必須条件です。この謙

虚な魂にこそ、聖なる神はお宿り下さって、(イザヤ57の15) 祝福豊かな生活へと高めて頂けるのです。

##### (3) 献身・奉仕・伝道の歩み

このイエスを主と告白する信仰の歩みにはどれほど豊かな恵みが伴うものか、量り知ることが出来ません。しかし大切なことは、この恵みを自らの内にだけで満足してはならないのです。与えられた恵みは、隣人に分け与えるためにこそあるのです。それ故に「自分の体を神に喜ばれる聖なるいけにえとして献げなさい。これこそあなたがたのなすべき礼拝です」(ロマ12の1)とパウロは勧めています。「イエスは主である」との信仰は、イエスの栄光のために、私たちの持てる凡てを献げ尽くして歩むことにあります。聖霊はそのような信仰の歩みを献げる者に惜しみなく注がれ、光栄あるクリスチャン生涯を全うさせて下さるのです。ハレルヤ。

コリント 12:3



# 証 立

## 『大胆な証し』

横浜岡村教会 井上 鈴枝

今年も、二週間の連鎖祈禱を行い、祈り備えニードを持ち、七月十一日(土)～十二日(日)の岡村アシラムに臨みました。主題は「キリストの思いを抱いて」Iコリントの信徒への手紙二章の説教でした。

連鎖祈禱の祈りを献げ、アシラムに備えている期間のことです。二十六年も会っていないかった北海道の、幼馴染みから久しぶりの電話があり、「明日、主人と東京へ行くから、会える」というのです。急でしたが品川で夜会う約束をしました。待ち合わせ場所に行くと、ご夫婦で待っていました。お互いに少し変わりましたが、彼女だと直ぐに分かりました。

そして、食事をする事になり、お店に入りました。席に着き彼女は、私に「クリスチャンやってるの」と、聴いてきたので、「毎週日曜日、主人と一緒に教会へ行っています。」と答えました。彼女が信仰の話をしてきたのは、ご夫婦で某宗教の会員になっており、その信仰の歩を話したかったからです。

彼女には三人のお嬢さんがいて五年前、二番目の子を交通事故で亡く

し、家族は悲しみの中におかれまして。お嬢さんを亡くす前のご主人は、わがまま放題、好き放題で家庭を省みないような人で、彼女はともも悩み苦しんだそうです。子供を亡くしたきっかけにより、ご主人は、今迄の自分を変えたいと思い、しばらく離れていた某宗教に戻り、信仰を取り戻したのです。同時に彼女も同じ宗教に入り、現在ご主人は副支部長、彼女は副婦人部長として活動しているようです。

宗教といえば、私の両親も某宗教の会員でした。そんなこともあって、私は、キリスト教と某宗教の違いが何であるか解っていました。互いの話が進むに連れて、私は二人を前にして、キリスト教は愛の宗教で、人は神から来て、神に愛されて生きていくことなどを、不思議にも大胆に話すことができました。そして、ご主人から驚きの告白があり、「実は自分の父はクリスチャンでした。」高校生の際にその父も亡くなり、キリスト教を感じることもなくなったそうです。

時間が経ちお別れが近づく頃、ご主人から、「ご夫婦で同じ信仰を持つことは素晴らしいことですね。今度、ご夫婦で北海道へ来てくださいます。是非ご主人と会って、お話をしたいです。」と言われました。

連鎖祈禱期間に、彼女と二十六年

ぶりに会い、神様の愛、イエス・キリストの十字架の意味、聖書に書かれていることなどを、ご夫婦に、お証しできたことは自分の力ではなく、目に見えない力の働きがあったからなのでしょう。なんと素晴らしい恵でしょう。連鎖祈禱の兄弟姉妹の祈りが伝わってきたように思います。

### 第28回

## 横浜岡村アシラム報告

安藤 脩



め、証し者とし佐野勇松師が立ちました。佐野師は体力に限界を感じ、裾野坂の上教会を辞して、横浜に住まいを得、現在は当教会で礼拝を守っておられます。

開催日時・7月11日(土)午後3時～12日(日)午後3時30分  
主題は「キリストの思いを抱いて」Iコリント2章でした。そして、このアシラムのためにそれぞれが2週間、コリント人への手紙第1を讀んで準備をしました。

今年のファミリーアワーは、教会創立60周年に向けての話し合いが中心となりました。

私どもの教会は、信徒が家庭を解放して、子ども会を始めたことがスタートになった教会です。又、日本を愛し、ただ福音を伝えるために、その全生涯を献げて下さったラングという宣教師ご夫妻に関わりを持つ教会です。このラング宣教師と清水ヶ丘教会の倉持芳雄牧師の支えと援助により、教会活動がスタートし、初代・梅澤幸太郎牧師を迎えたのが一九四九年でした。戦後の日本の荒廃のなかで、聖書信仰に立ち、主イエス・キリストの愛を語り、生き様を通して示して下さった先達の信仰を回顧し、私たちも同じく、聖書信仰と愛を生きる教会として、再スタートにしよう、というのが創立60周年記念会の意味であるこ

岡村アシラムは横浜岡村教会主催の小さなアシラムです。近年は助言者と証し者を交互に迎えて、ご奉仕していただいています。今年には助言者を主任の安藤脩牧師が務

とを確認しあいました。

そのために、教会60年の歩みをストーリーとし、それに出来る限りの、その時、その状況を写真で映し出すことにし、準備が進められました。

福音の時は、「福音を伝えるということは、決して難しいことではない。福音は、生まれながらの人には秘められたものであっても、救いを体験した者にとっては、自分の身に起きた贖いの体験を、そのまま語りさえすれば良いのです。」と語られました。

全日程参加した人は20名でしたが、最後の充滿の時も25名が参加し、時間が足りないくらい、多くの恵の証しがなされました。そしてこれからの1年、各自の静聴の時を大事にし、祈りの細胞の友のため折り合うことを確認して終わりました。

第47回

関東アシラム報告

安藤 脩

主題「聖霊が降るとき」(使徒言行録1:8)

第47回関東アシラムは9月14日(月)から16日(水)に、今年も山崎製パン箱根山荘で行われました。今回は準備段階からハブニング続きでした。

書記として奉仕くださっていた

池の上キリスト教会の島津吉成師

が、教団の事情で転任となりました。急遽、書記を私・安藤が引き継ぐことになったのですが、今までただ参加しているという状況でしたから、具体的働きにおいて、多くの欠けが生じてしまいました。でも、事務局になっている池の上キリスト教会の事務を担っている石井寛兄が全面的に支えてくださいました。更に会計を担当くださっている川村秀夫兄が、会計のみならず受付、放送、写真や細かい配慮をしてくださったので、大きな支障にはならず幸いでした。真に感謝です。

また、助言者として奉仕くださるはずだった杉田常夫師が、8月24日に急逝され、助言者の変更を余儀なくされました。幸い、小島十二師がお受けくださいましたが、小島師は透析を受けておられるため、当初は不可能の状態でした。しかし、主の霊に押し出されて、医師の寛大な御協力もあって、ご奉仕くださいました。この事は、参加者一同にとって、主の霊の導きに、命を賭けて従う実例として、メッセージと共に、強く心打たれる結果となりました。

又、日本クリスチャン・アシラム連盟理事長の大石嗣郎師が、8月31日に召天されましたので、関東アシラム委員会としても大打撃でした。葬儀の日が準備委員会の日

と重なったため、委員会日程を変更し、委員の多くは葬儀に参列しました。そのため最後の委員会を3日前にしましたが、これも初めてのことでした。

このお二人の追悼記念会を横山義孝師の司式により、ファミリーアワーの中で行いました。大石師のお嬢さん田中百合子姉が、お父様の思い出を語ってくださいました。田中姉はこのアシラム期間中、奏楽を引き受けてくださり、主にある者の召天は勝利の凱旋であることを、身をもって証し下さいました。

今回のアシラムでは、九州アシラム委員会が製作したTシャツが販売され、30枚が完売となりました



2009.9.14~16 山崎製パン箱根山荘にて

た。それ故、多くの人がこの同じユニホーム姿で参加し、一体感を感じるアシラムでもありました。

参加者は今ままで最も少ない33名でしたが、函館栄光アシラムを始めようとしている函館栄光キリスト教会から4名が参加くださったことは感謝でした。人数的には少々残念さを覚えました。内容的には聖霊の臨在を覚える、豊かに祝されたアシラムでした。それは昨年以上の献金や、充滿の時、恵と感謝が満ち溢れたことに現れていました。

▼杉田常夫師(82才・関西アシラム委員、前日本基督教団枚方教会牧師)  
 '09年8月24日(月)虚血性心臓疾患により召天されました。

▼大石嗣郎師(87才・日本クリスチャン・アシラム連盟理事長、前日本基督教団碑文谷教会牧師)  
 '09年8月31日(月)肝臓並肺癌により召天されました。

ご遺族と御教会の上に主の御慰めを祈り上げます。(Y)

〒一八〇〇一一 三鷹市井口3-15-6  
 池の上キリスト教会内  
 日本クリスチャン・アシラム連盟  
 振替口座 東京〇一〇〇一四五五八